

平成30年度

杉田玄白記念公立小浜病院 新改革プラン実績評価書

令和元年9月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

## ◎ はじめに

新公立病院改革プラン（以下、「新改革プラン」という。）は、平成 27 年 3 月に総務省において策定された「新公立病院改革ガイドライン」を踏まえ平成 28 年度に策定されている。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む 5 名の委員で構成され、平成 30 年度決算を含めた、「新改革プラン」実施状況を点検・評価した。

### 1. 評価区分の基準

「計画、実績」「新改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように 4 段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

## 2. 総合評価

今年度は、事業収益が目標額に達せず、一方事業費用は目標額を達成し、結果損益状況は目標額を達成できていない。経常収支比率等は、計画目標を下回った評価が多くなっている。この状況を踏まえ、常勤医師ならびに研修医等の医師確保、看護師確保により診療機能を充実させる等、病院経営幹部を中心として、役割分担を決め、「必ず黒字化できるという信念」を持って、全職員で経営指標に係る数値目標を達成する経営改善に向け努力をして頂きたい。

地域医療構想との整合性を図りつつ、近い将来の人口減少等を踏まえ、病床区分・病床数の見直し、経営形態・事業形態の検討をして頂きたい。

基幹病院として、開業医等との紹介・逆紹介の連携を更に進め、嶺南医療圏・若狭地域の第一次から第三次医療まで、高度急性期から慢性期医療まで幅広い医療を提供する役割を引き続き担って頂きたい。

### I. 「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」

- ① 入院医療 高度急性期病床、急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟および精神病棟を有機的に運用する。
  - ・前年度実績より患者数は減少、収益は増加している。平成30年3月から一般病床増床、療養病床減床を実施し収益確保体制を強化したが、医師不足もあり目標数値に達していない。収益確保の根幹である医師確保活動に更に注力し、また各診療科の現状分析を行い、その対応策を立て目標達成に取り組んで頂きたい。
- ② 外来医療 主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。
  - ・化学療法治療、地域唯一の分娩取扱医療機関としての周産期医療への取り組み、患者数・収益ともに目標数値を達成しており評価できる。

- ③ 救急医療 救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する。
- ・救急総合診療科の医師を6名確保し、救急患者の受入れに努めている点は評価できる。今後は、消化器内科医師確保に注力して頂きたい。
- ④ へき地医療 へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。
- ・地域の高齢化・過疎化により、診療回数および延患者数は減少しているが、交通手段の乏しい無医地区への巡回診療や診療所への医師派遣については評価できる。
- ⑤ 災害医療 災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。
- ・災害拠点病院として、DMAT隊員増員、情報収集活動、各種の訓練研修会への参加等、積極的な取り組みは評価できる。
- ⑥ 周産期医療 地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。
- ・地方の医療機関で産婦人科医師不足が深刻化する中、1名増員し3名医師体制としたこと、地域で唯一の分娩取扱医療機関として外来を拡張し充実させたこと、助産師を増員させたことは高く評価できる。
- ⑦ 小児医療 一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。
- ・地方の医療機関で小児科医師不足が深刻化している中、3名の医師体制を維持し地域医療に貢献していることは高く評価できる。休日の小児救急医療、嶺南地域の小児療育医療への取り組みも高く評価できる。

⑧ 5 疾病への対応 がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。

精神医療については、認知症への対応を強化する。

- ・福井や京都の大学病院と連携し、5 疾病への適切な対応は評価できる。また、精神医療へのチーム活動（精神科リエゾン）などの積極的な取り組みも評価できる。

⑨ 感染症への対応 結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウイルス疾患にも対応する。

- ・利用率は低いが、結核病床・感染症病床を維持し、嶺南地域の医療を担っていることは評価できる。

⑩ 健診業務 健診体制の整備をはかり、病気の予防、早期発見に努める。

- ・受入枠を拡大させ、受診者数を増加させていることは評価できる。今後は、健診の必要と健診内容を分かり易く説明したパンフレット等を作成し、PR活動にも努めて頂きたい。

⑪ 研修機能 職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。

- ・研修医や看護師をはじめとした職員教育に尽力し、職員の資質向上に努めていることは評価できる。また、地域住民へ医療情報発信の場を設けている取り組みも評価できる。研修医が、研修終了後にそのまま定着してもらう方策を検討して頂きたい。

⑫ 医療従事者の養成・確保 看護師の養成・確保。

- ・併設の公立若狭高等看護学院（以下、「看護学院」という。）との連携等により、看護師の養成および確保に努めていることは評価できる。より多くの看護学院卒業生に就職してもらえる方策を検討して頂きたい。

- ⑬ 地域包括ケアシステム 地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。
- ・紹介率・逆紹介率とも数値は伸びている。地域性を考慮すると、数値は頭打ちとなるかもしれないが、今後も向上させるよう連携診療所を紹介するパンフレット及び地図の作成、訪問による営業活動に努めて頂きたい。
- ⑭ 在宅医療 訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置。
- ・人的要因で在宅医療への取り組みが困難とのことであるが、住民の高齢化によって在宅医療は需要があると考えられる。至急ではないが、今後の実施に向け具体的な方針を策定して頂きたい。
- ⑮ 地域連携クリティカルパス 福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用しての県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っていく。
- ・脳卒中連携パスの取り組みは評価できる。今後は、「がん」「急性心筋梗塞」「糖尿病」等のパス導入実施を検討して頂きたい。
- ⑯ 地域貢献 安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。
- ・地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、産婦人科医師 3 名・小児科医師 3 名の体制を構築していることは高く評価できる。

## II. 「経費削減・抑制対策」

### ① 給与費の抑制

人件費に見合う収益を見込める職種以外は基本増員しない。

業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。

- ・職員数が微減し、給与費が微減して医業収益が増加したため対医業収益比率は下がってはいるが、超過勤務手当は増額している。超過勤務の原因を調査し、業務の見直しや効率化を研究し、対策責任者の下で超過勤務手当削減に努めて頂きたい。

### ② 経費の削減

薬品費は、値引き交渉を強化する。

材料費は、「診療材料検討委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と節減に努める。

経費は、医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。

- ・薬品費や診療材料費については、価格交渉や採用品の見直しなどの取り組みは評価できる。引き続き価格交渉に努めて頂きたい。経費のうち委託費保守契約について、契約内容の見直し、職員の保守への積極的な関わりは評価できる。

## III. 「収入増加・確保対策」

### ① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。

- ・レセプトチェックシステム導入などによる、査定請求漏れ対策は評価できる。審査機関の査定基準によるところもあるが、査定・請求漏れ発生部門を中心にして、対策責任者の下で事務職員だけでなく、診療部や看護部など他の職種も関与した査定額削減対策に努めて頂きたい。

② 人間ドック等の健診収益増加を図る。

- ・受入枠を拡大させ、受診者数を増加させていることは評価できる。多くの方に利用してもらえるよう、パンフレット作成等のPR活動に努めて頂きたい。

③ 病棟稼働率増による入院収益確保。

- ・平成30年3月から一般病床増床、療養病床減床を実施し収益確保体制を強化した取り組みは評価できるが、病棟稼働率は目標数値を下回っている。医師不足が原因と考えられる面もあるので、医師確保に注力し、特に消化器内科医師の確保ができれば病棟稼働率が向上し、収益確保となると思われる。

④ 紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。

- ・紹介率・逆紹介率とも数値は伸びている。地域性を考慮すると、数値は頭打ちとなるかもしれないが、多くの患者に向けた連携診療所を紹介するパンフレット及び地図の作成、訪問による営業活動に努めて頂きたい。

## 新改革プラン数値目標に対する実績評価

(単位：百万円)

杉田玄白記念公立小浜病院		平成29年度 決算	平成30年度 プラン (A)	平成30年度 決算 (B)	決算－プラン (B)－(A)
収 益 的 収 支	病院事業収益・・・(a)	7,655	8,019	7,922	▲ 97
	うち、外来収益	1,931	1,920	2,071	151
	うち、入院収益	4,345	4,650	4,447	▲ 203
	うち、医業外収益	960	967	972	5
	病院事業費用・・・(b)	7,775	8,019	8,001	▲ 18
	うち、給与費	3,762	3,932	3,757	▲ 175
	うち、材料費	1,255	1,370	1,440	70
	うち、経費	815	918	846	▲ 72
	うち、減価償却費	684	616	616	0
	純損益・・・(c) = (a) - (b)	▲ 120	0	▲ 79	▲ 79
資本的収支 (4条予算対応)		▲ 562	▲ 591	▲ 590	1
累積欠損金		1,915	1,915	1,995	80

財務に係る数値目標	平成29年度 決算	平成30年度 プラン (A)	平成30年度 決算 (B)	決算ープラン (B) - (A)	自己評価	委員会評価
経常収支比率 (%)	98.5	100.0	99.0	▲ 1.0	△	△
経常収支比率 (減価償却費を除く) (%)	108.0	108.3	107.3	▲ 1.0	△	△
医業収支比率 (%)	92.1	92.5	93.0	0.5	○	○
職員給与費対医業収益比率 (%)	56.2	55.8	54.1	▲ 1.7	○	○
病床利用率 (一般) (%)	89.6	86.0	78.9	▲ 7.1	×	×
病床利用率 (療養) (%)	74.9	96.0	91.6	▲ 4.4	×	×
病床利用率 (精神) (%)	81.8	82.0	80.7	▲ 1.3	△	△
外来患者数 (1日平均) (人)	789.5	790.0	802.1	12.1	○	○

# 杉田玄白記念公立小浜病院 新改革プランに対する平成30年度実績評価シート

## 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

嶺南医療圏・若狭地域唯一の総合病院として、第一次から第三次医療までを担い、高度急性期医療から慢性期医療まで幅広い医療を提供する。							
役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価	
① 入院医療 高度急性期病床、急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟および精神病棟を有機的に運用する。		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年3月より、一般病床を50床増床、療養病床50床減床の病床区分変更をした。しかし医師数の減少もあり、一般病床・療養病床とも計画延患者数を確保出来ず、結果収益においても計画達成とならなかった。1人1日当たり収益は計画を達成できている。	×	×
	入院延患者数	133,782人	135,505人	129,329人			
	1日平均入院患者数	367人	371人	354人			
	入院収益	4,244,835千円	4,345,328千円	4,447,097千円			
	1人1日当たり入院収益	31,729円	32,068円	34,386円			
	一般病棟利用率	87.3%	89.6%	78.9%			
	療養病棟利用率	75.1%	74.9%	91.6%			
	精神病棟利用率	81.2%	81.8%	80.7%			
② 外来医療 主な診療科に加え比較的需要の多い特殊な科（専門外来）も開設する。		平成28年度	平成29年度	平成30年度	診療体制の変更はなかったが、化学療法治療患者数の増加、市内の分娩取扱医療機関廃止による産婦人科小児科患者数の増加等により、延患者数・収益・1人1日当たり収益とも計画を達成することができた。	○	○
	外来延患者数	189,430人	191,848人	194,919人			
	1日平均外来患者数	783人	790人	802人			
	外来収益	1,865,987千円	1,930,636千円	2,071,111千円			
	1人1日当たり外来収益	9,851円	10,063円	10,625円			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																
③ 救急医療 救命救急センターとして1年365日24時間すべての救急患者を受け入れ、総合的な救急医療を提供する。	(単位：人) <table border="1" data-bbox="439 193 1270 352"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>13,989</td> <td>13,892</td> <td>13,917</td> </tr> <tr> <td>1日平均救急患者数</td> <td>38.3</td> <td>38.1</td> <td>38.1</td> </tr> <tr> <td>救急車搬送数</td> <td>1,954</td> <td>1,976</td> <td>2,057</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	救急患者数	13,989	13,892	13,917	1日平均救急患者数	38.3	38.1	38.1	救急車搬送数	1,954	1,976	2,057	①平成29年4月より救急総合診療科医師が6名体制となり、平成30年度もその体制を継続できたことで、救急患者をスムーズに受け入れることができた。 ②平成30年4月より循環器内科医師2名増員により急性心筋梗塞等の患者をスムーズに受け入れることができた。	○	○																																
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																	
救急患者数	13,989	13,892	13,917																																																	
1日平均救急患者数	38.3	38.1	38.1																																																	
救急車搬送数	1,954	1,976	2,057																																																	
④ へき地医療 へき地医療拠点病院として、自らへき地医療を実施するとともに遠隔地は地元医療機関に委託して、へき地医療を確保する。	<table border="1" data-bbox="439 464 1270 624"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療回数</td> <td>130回</td> <td>120回</td> <td>115回</td> </tr> <tr> <td>延患者数</td> <td>729人</td> <td>693人</td> <td>676人</td> </tr> <tr> <td>1回平均患者数</td> <td>5.6人</td> <td>5.7人</td> <td>5.9人</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	診療回数	130回	120回	115回	延患者数	729人	693人	676人	1回平均患者数	5.6人	5.7人	5.9人	①へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当している。しかしながら地域の過疎化等により受診者は減少してきている。巡回診療は、堅海・上根来・宮川・日引・西浦の5地区となり、河内・奥杉山・音海・上瀬の4地区は休止となっている。交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。 ②名田庄診療所の要請により医師を派遣している。	○	○																																
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																	
診療回数	130回	120回	115回																																																	
延患者数	729人	693人	676人																																																	
1回平均患者数	5.6人	5.7人	5.9人																																																	
⑤ 災害医療 災害拠点病院として、当地域での災害医療を提供するとともに、災害医療派遣チームにより被災地での救護活動も実施する。	活動記録 <table border="1" data-bbox="439 775 1270 1439"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>日</th> <th>研修名</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>9~12</td> <td>新規隊員養成研修(神戸)</td> <td>福井県混成チームにて1名養成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>24・25</td> <td>技能維持研修(富山)</td> <td>受講3名、講師1名</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>18</td> <td>大阪府北部地震</td> <td>情報収集業務等を実施</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7・8</td> <td>西日本豪雨</td> <td>情報収集業務等を実施</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>10・11</td> <td>技能維持研修(長野)</td> <td>受講1名</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6</td> <td>北海道胆振地方中東部地震</td> <td>情報収集業務等を実施</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>29・30</td> <td>技能維持研修(名古屋) 統括技能維持研修(名古屋)</td> <td>技能維持研修 受講3名 統括技能維持研修 受講1名</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>13・14</td> <td>中部ブロック実働訓練</td> <td>1隊が参加(富山県全域)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>30</td> <td>福井県広域災害医療救急医療情報システム(EMIS)研修会</td> <td>タスク1名派遣</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2</td> <td>福井MCLS標準コース(小浜)</td> <td>当院にて実施</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>8</td> <td>ホスピタルMIMMS研修</td> <td>看護部副部長</td> </tr> </tbody> </table>	月	日	研修名	参加者	5	9~12	新規隊員養成研修(神戸)	福井県混成チームにて1名養成	5	24・25	技能維持研修(富山)	受講3名、講師1名	6	18	大阪府北部地震	情報収集業務等を実施	7	7・8	西日本豪雨	情報収集業務等を実施	7	10・11	技能維持研修(長野)	受講1名	9	6	北海道胆振地方中東部地震	情報収集業務等を実施	9	29・30	技能維持研修(名古屋) 統括技能維持研修(名古屋)	技能維持研修 受講3名 統括技能維持研修 受講1名	10	13・14	中部ブロック実働訓練	1隊が参加(富山県全域)	11	30	福井県広域災害医療救急医療情報システム(EMIS)研修会	タスク1名派遣	12	2	福井MCLS標準コース(小浜)	当院にて実施	12	8	ホスピタルMIMMS研修	看護部副部長	平成31年3月31日現在の日本DMAT認定隊員数は、医師4名(うち、統括DMAT有資格者3名)、看護師10名、業務調整員5名(うち、タスク登録者2名)となった。タスク登録者(業務調整員)1名の異動、有資格者が看護師1名から2名となった。不足気味のDMAT看護師を1名増員できたことにより、有事でのチーム編成が容易となった。今後は、看護師の有資格者ならびにタスク登録者の養成を図りたいと考えている。 (DMAT・・・医師・看護師・医療職及び事務職員で構成され、大規模災害等が発生した事故などの現場に、急性期に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チーム。 )	○	○
月	日	研修名	参加者																																																	
5	9~12	新規隊員養成研修(神戸)	福井県混成チームにて1名養成																																																	
5	24・25	技能維持研修(富山)	受講3名、講師1名																																																	
6	18	大阪府北部地震	情報収集業務等を実施																																																	
7	7・8	西日本豪雨	情報収集業務等を実施																																																	
7	10・11	技能維持研修(長野)	受講1名																																																	
9	6	北海道胆振地方中東部地震	情報収集業務等を実施																																																	
9	29・30	技能維持研修(名古屋) 統括技能維持研修(名古屋)	技能維持研修 受講3名 統括技能維持研修 受講1名																																																	
10	13・14	中部ブロック実働訓練	1隊が参加(富山県全域)																																																	
11	30	福井県広域災害医療救急医療情報システム(EMIS)研修会	タスク1名派遣																																																	
12	2	福井MCLS標準コース(小浜)	当院にて実施																																																	
12	8	ホスピタルMIMMS研修	看護部副部長																																																	

役割と計画	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																
	12	9	1 Day MIMMS研修	看護師1名、臨床検査技師1名																																			
	12	22・23	ロジスティックチーム 隊員養成研修（立川市）	受講1名																																			
	1	3	熊本県熊本地方地震	情報収集業務等を実施																																			
	1	9	福井県国民保護共同図上訓練	1名参加																																			
	1	10	福井県災害医療本部 研修（A C T研修）	2名参加																																			
	2	4・5	技能維持研修（岐阜）	受講2名																																			
	2	21	北海道胆振地方中東部地震	情報収集業務等を実施																																			
	随時		2カ月に1回程度の資機材チェック等																																				
<p>⑥ 周産期医療</p> <p>地域周産期母子医療センターとして、通常分娩等の他、ハイリスク分娩等高度な周産期医療を提供する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>6,384人</td> <td>5,481人</td> <td>6,767人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,779人</td> <td>2,522人</td> <td>3,091人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>158,824千円</td> <td>128,460千円</td> <td>170,968千円</td> </tr> <tr> <td>正常分娩</td> <td>91件</td> <td>81件</td> <td>79件</td> </tr> <tr> <td>異常分娩</td> <td>38件</td> <td>39件</td> <td>69件</td> </tr> <tr> <td>帝王切開</td> <td>45件</td> <td>27件</td> <td>38件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>174件</td> <td>147件</td> <td>186件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※異常分娩とは出血量が500ml以上の分娩を指す。</p>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	外来延患者数	6,384人	5,481人	6,767人	入院延患者数	2,779人	2,522人	3,091人	外来・入院収益	158,824千円	128,460千円	170,968千円	正常分娩	91件	81件	79件	異常分娩	38件	39件	69件	帝王切開	45件	27件	38件	計	174件	147件	186件	<p>地方の医療機関において、産科医師不足が深刻化する中、平成30年4月より産科医師3名体制を確保している。</p> <p>平成31年1月から、近隣の産科クリニックの分娩業務が取り止めとなり、当院での受入体制を強化するため、産婦人科外来の拡張、産科医師・助産師の増員をはかり、地域の妊産婦が安心して分娩できる医療体制の維持に努めている。</p>	○	○
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																				
外来延患者数	6,384人	5,481人	6,767人																																				
入院延患者数	2,779人	2,522人	3,091人																																				
外来・入院収益	158,824千円	128,460千円	170,968千円																																				
正常分娩	91件	81件	79件																																				
異常分娩	38件	39件	69件																																				
帝王切開	45件	27件	38件																																				
計	174件	147件	186件																																				
<p>⑦ 小児医療</p> <p>一般小児疾患に広く対応する他、特に小児療育施設において発達障害等の治療・療育に注力する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>13,874人</td> <td>13,966人</td> <td>14,180人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,480人</td> <td>1,593人</td> <td>2,031人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>188,183千円</td> <td>152,547千円</td> <td>179,486千円</td> </tr> <tr> <td>小児療育数</td> <td>1,467人</td> <td>1,802人</td> <td>2,002人</td> </tr> </tbody> </table>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	外来延患者数	13,874人	13,966人	14,180人	入院延患者数	2,480人	1,593人	2,031人	外来・入院収益	188,183千円	152,547千円	179,486千円	小児療育数	1,467人	1,802人	2,002人	<p>地方の医療機関において、小児科医師不足が深刻化する中、小児科医3名体制を維持しながら地域医療を担っている。</p> <p>地元医師会と連携し、休日の小児救急当番医を担当する他、嶺南地域の小児療育医療に取り組み、患者数は増加している。</p>	○	○												
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																				
外来延患者数	13,874人	13,966人	14,180人																																				
入院延患者数	2,480人	1,593人	2,031人																																				
外来・入院収益	188,183千円	152,547千円	179,486千円																																				
小児療育数	1,467人	1,802人	2,002人																																				

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																																
<p>⑧ 5疾病への対応</p> <p>がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病については、質の高い医療を提供し、極めて高度で特殊な疾患はより高次の病院へ円滑に紹介する。</p> <p>精神医療については、認知症への対応を強化する。</p>	<p>高次病院への紹介数 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 193 1270 312"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>360</td> <td>425</td> <td>397</td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>150</td> <td>161</td> <td>163</td> </tr> </tbody> </table> <p>精神科リエゾンチーム活動実績</p> <table border="1" data-bbox="439 387 1270 544"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度 (10~3月)</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>26人</td> <td>67人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>延回診数</td> <td>101回</td> <td>206回</td> <td>245件</td> </tr> </tbody> </table> <p>対象疾患別人数 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 619 1270 1011"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うつ病</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>せん妄</td> <td>12</td> <td>19</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>認知症</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>統合失調症</td> <td>2</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>神経症</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>自殺企図</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>睡眠障害</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>非定型精神病</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>パニック障害</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	福井大学医学部附属病院	360	425	397	京都大学医学部附属病院	150	161	163		平成28年度 (10~3月)	平成29年度	平成30年度	患者数	26人	67人	53人	延回診数	101回	206回	245件		平成28年度	平成29年度	平成30年度	うつ病	7	14	7	せん妄	12	19	24	認知症	7	14	14	統合失調症	2	12	4	神経症	0	13	6	自殺企図	0	2	1	睡眠障害	3	4	5	非定型精神病	0	1	0	パニック障害	0	1	0	<p>高度で特殊な疾患はより高次の病院へ紹介している。精神医療については、デイケア等の利用を考慮し入院患者の早期退院、社会復帰を目指している。</p> <p>精神科医師、精神科認定看護師、臨床心理士等のチーム（精神科リエゾン）により、一般病棟入院中の「せん妄」「抑うつ」「認知症」「その他精神疾患を有する患者」等を対象として、入院中から退院後について「診療実施計画書」「治療計画書」を立て、チームで終了時指導、又は退院時指導を行い、病診連携を図っている。</p>	○	○
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																																	
福井大学医学部附属病院	360	425	397																																																																	
京都大学医学部附属病院	150	161	163																																																																	
	平成28年度 (10~3月)	平成29年度	平成30年度																																																																	
患者数	26人	67人	53人																																																																	
延回診数	101回	206回	245件																																																																	
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																																	
うつ病	7	14	7																																																																	
せん妄	12	19	24																																																																	
認知症	7	14	14																																																																	
統合失調症	2	12	4																																																																	
神経症	0	13	6																																																																	
自殺企図	0	2	1																																																																	
睡眠障害	3	4	5																																																																	
非定型精神病	0	1	0																																																																	
パニック障害	0	1	0																																																																	
<p>⑨ 感染症への対応</p> <p>結核病床、感染症病床を維持し、一般的な感染症の他、新型インフルエンザ等の新型ウィルス疾患にも対応する。</p>	<p>(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="439 1086 1270 1206"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>結核病床入院延患者数</td> <td>211</td> <td>164</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>感染症病床入院延患者数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	結核病床入院延患者数	211	164	152	感染症病床入院延患者数	0	0	0	<p>結核病床の利用率は低いですが、嶺南地域の結核医療を担っている。</p>	○	○																																																				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																																	
結核病床入院延患者数	211	164	152																																																																	
感染症病床入院延患者数	0	0	0																																																																	

役割と計画	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑩ 健診業務 健診体制の整備をはかり、 病気の予防、早期発見に努 める。	(単位：件)				①平成29年度より協会けんぽ枠を拡大し受け入れ体制を強化した。平成30年度もその体制を維持し、結果件数は前年度比約1.3倍となった。 ②減少傾向にある2日ドック、PET健診の受診患者を確保するため、地域の企業訪問等を実施した。PET健診については、平成31年度から公立高島病院と契約し受入の予定。 ③脳ドックは、バス会社やタクシー会社の運転手健診強化による受診者数が増加した。	○	○
		平成28年度	平成29年度	平成30年度			
	1日ドック	672	687	674			
	2日ドック	47	33	40			
	PET健診	41	17	10			
	脳ドック	72	73	95			
	1日ドック+脳ドック	43	52	57			
	2日ドック+脳ドック	16	17	10			
	1日ドック+PET	0	0	0			
	2日ドック+PET	0	0	0			
	特定健診	71	62	73			
	協会けんぽ	304	394	502			
	一般健康診断	198	160	200			
	市町村個別検診	51	61	57			
計	1,515	1,556	1,718				

役割と計画	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																			
<p>⑪ 研修機能 職員教育に尽力し、職員の資質向上に努める。</p>	<p>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し利用している。 ②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会開催や講演会等の受講が当院に居ながら可能となっている。 ③研修医は4名となった。 ④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。</p> <p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="439 502 1270 970"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学会出席</td> <td>医 師</td> <td>204</td> <td>242</td> <td>210</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>188</td> <td>99</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>249</td> <td>179</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>事 務 他</td> <td>109</td> <td>61</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>750</td> <td>581</td> <td>542</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨床研修医</td> <td>病 院 単 独</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>た す き が け 医 科</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>” 歯 科</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>嶺南医療振興財団奨学生</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>救 急 救 命 士 研 修</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>			平成28年度	平成29年度	平成30年度	学会出席	医 師	204	242	210	看 護 師	188	99	136	医 療 技 術 員	249	179	128	事 務 他	109	61	68	計	750	581	542	臨床研修医	病 院 単 独	5	3	4	た す き が け 医 科	0	2	0	” 歯 科	1	0	0	計	6	5	4	嶺南医療振興財団奨学生	2	6	4	救 急 救 命 士 研 修	11	13	24	<p>①臨床研修指定病院として、指導医を確保し地域医療に貢献できる医師の育成を図った。 ②地域性の問題を解消し、医療知識向上が図れるよう、医療職を対象とした京大連携わかさセミナーを毎月開催している。 ③今後も、研修医の指導を充実させ、研修医の確保・定着を図るとともに、嶺南医療振興財団奨学生を確保していく。 ④認定看護師養成に引き続き取組み、手術看護1名・認知症看護1名・脳卒中リハビリテーション看護1名の資格を取得した。他に、認定看護管理者認定資格取得、認定看護管理者ファーストレベルに2名参加した。 ⑤地域住民向け健康フェアを、平成30年度については10月27日に開催した。循環器内科医師と慢性心不全看護認定看護師による市民講座と無料健康チェックを行い、延参加者数は65名であった。</p>	○	○
		平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																			
学会出席	医 師	204	242	210																																																			
	看 護 師	188	99	136																																																			
	医 療 技 術 員	249	179	128																																																			
	事 務 他	109	61	68																																																			
	計	750	581	542																																																			
臨床研修医	病 院 単 独	5	3	4																																																			
	た す き が け 医 科	0	2	0																																																			
	” 歯 科	1	0	0																																																			
	計	6	5	4																																																			
嶺南医療振興財団奨学生	2	6	4																																																				
救 急 救 命 士 研 修	11	13	24																																																				
<p>⑫ 医療従事者の養成・確保 看護師の養成・確保。</p>	<p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="439 1045 1270 1321"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>新 採 用</td> <td>26</td> <td>10</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>退 職</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>増 減</td> <td>13</td> <td>△1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学生</td> <td>入 学 生</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>卒 業 生</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>小浜病院組合就職者</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>			平成28年度	平成29年度	平成30年度	看護師	新 採 用	26	10	18	退 職	13	11	13	増 減	13	△1	5	看護学生	入 学 生	27	27	30	卒 業 生	25	25	28	小浜病院組合就職者	5	12	8	<p>①公立若狭高等看護学院の看護師養成において、当地域で従事する優れた看護師を育成するため、実習病院施設として、継続的な支援・協力を行っている。 ②看護師確保については、7:1の看護体制を維持するため人員確保に努力をしている。引き続き、公立若狭高等看護学院卒業生の確保をするとともに、他の看護学校・看護大学の卒業生や潜在看護師確保を図っていく。</p>	○	○																				
		平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																			
看護師	新 採 用	26	10	18																																																			
	退 職	13	11	13																																																			
	増 減	13	△1	5																																																			
看護学生	入 学 生	27	27	30																																																			
	卒 業 生	25	25	28																																																			
	小浜病院組合就職者	5	12	8																																																			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																								
⑬ 地域包括ケアシステム 地域の医療機関および介護施設等との連携を推進する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>4,498人</td> <td>4,552人</td> <td>4,816人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>3,314人</td> <td>3,614人</td> <td>4,221人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>27.0%</td> <td>29.1%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>18.2%</td> <td>22.1%</td> <td>38.4%</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	紹介患者数	4,498人	4,552人	4,816人	逆紹介患者数	3,314人	3,614人	4,221人	紹介率	27.0%	29.1%	29.7%	逆紹介率	18.2%	22.1%	38.4%	①地域の医療機関や介護施設との連携を図るとともに、連絡・協議を行う体制を図っている。 ②紹介率40%以上を目指し、逆紹介率30%以上を維持するとともに、高額医療機器や一般病床の共同利用も協議していきたい。	○	○				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																									
紹介患者数	4,498人	4,552人	4,816人																									
逆紹介患者数	3,314人	3,614人	4,221人																									
紹介率	27.0%	29.1%	29.7%																									
逆紹介率	18.2%	22.1%	38.4%																									
⑭ 在宅医療 訪問看護・訪問診療の開始、訪問看護ステーションの設置。		訪問看護・訪問診療・訪問看護ステーション開設のための医師・看護師が確保できていないため、検討は行っていない。充足するまでの間は、救急医療・急性期医療の充実を図っていく。	×	×																								
⑮ 地域連携クリティカルパス 福井脳卒中連携協議会に参加し、パスを利用する県内病院・診療所と相互の紹介・逆紹介を行っていく。	脳卒中連携パス実施状況 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泉ヶ丘病院</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>福井総合病院</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>鳴田病院</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>林病院</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	泉ヶ丘病院	11	8	10	福井総合病院	3	3	1	鳴田病院	3	1	1	林病院	0	1	0	計	17	13	12	福井脳卒中連携協議会に参加し、県内の病院・診療所との紹介等を行っている。他の地域連携クリティカルパスの利用も検討したい。	△	△
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																									
泉ヶ丘病院	11	8	10																									
福井総合病院	3	3	1																									
鳴田病院	3	1	1																									
林病院	0	1	0																									
計	17	13	12																									
⑯ 地域貢献 安心して子供を産み育てられるよう小児・周産期医療を維持・強化する。	(4月1日付 単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科医</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>産婦人科医</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>		平成28年度	平成29年度	平成30年度	小児科医	3	3	3	産婦人科医	2	2	3	平成30年度は、小児科医3名・産婦人科医3名の診療体制と、産婦人科医について1名増員となっている。	○	○												
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																									
小児科医	3	3	3																									
産婦人科医	2	2	3																									

経費削減・抑制対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
<p>① 給与費の抑制</p> <p>人件費に見合う収益を見込める職種以外は基本増員しない。 業務の見直しと効率化により超過勤務手当を削減する。</p>	<p>(職員数は4月1日付・カッコ内は非常勤職員数)</p> <table border="1" data-bbox="439 188 1270 620"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">職員数(人)</td> <td>医 師</td> <td>41 (13)</td> <td>46 (13)</td> <td>45 (10)</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>243 (64)</td> <td>245 (65)</td> <td>255 (59)</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>80 (7)</td> <td>82 (7)</td> <td>82 (8)</td> </tr> <tr> <td>事 務 ・ 他</td> <td>93 (62)</td> <td>100 (55)</td> <td>99 (51)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>457 (146)</td> <td>473 (140)</td> <td>481 (128)</td> </tr> <tr> <td>医 業 収 益</td> <td>6,533,390千円</td> <td>6,694,909千円</td> <td>6,950,082千円</td> </tr> <tr> <td>給 与 費</td> <td>3,615,826千円</td> <td>3,761,523千円</td> <td>3,756,749千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td>55.3%</td> <td>56.2%</td> <td>54.1%</td> </tr> <tr> <td>超 過 勤 務 手 当</td> <td>204,391千円</td> <td>206,802千円</td> <td>212,475千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> </tr> </tbody> </table>						平成28年度	平成29年度	平成30年度	職員数(人)	医 師	41 (13)	46 (13)	45 (10)	看 護 師	243 (64)	245 (65)	255 (59)	医 療 技 術 員	80 (7)	82 (7)	82 (8)	事 務 ・ 他	93 (62)	100 (55)	99 (51)	計	457 (146)	473 (140)	481 (128)	医 業 収 益	6,533,390千円	6,694,909千円	6,950,082千円	給 与 費	3,615,826千円	3,761,523千円	3,756,749千円	対 医 業 収 益 比 率	55.3%	56.2%	54.1%	超 過 勤 務 手 当	204,391千円	206,802千円	212,475千円	対 医 業 収 益 比 率	3.1%	3.1%	3.1%	<p>平成29年度から再任用制度により、定年退職後に希望により1年毎(2年間～3年間)契約で正職員としての任用を実施している。職種は、看護師・看護補助員等となっている。 職員数は、医師数減、看護師数増等で総数では微減となっている。 給与費は、勤勉手当の近年の人勤による増加月数停止を解除したことによる増額分等があるが、職員数の減もあり総額は減少している。対医業収益比率は、医業収益増加もあり低下した。 超過勤務手当は、急性期病棟の入院患者数増により医師・看護師等増額となった。対医業収益比率は、医業収益増加により近年に同数値となっている。</p>	△	△
		平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																	
職員数(人)	医 師	41 (13)	46 (13)	45 (10)																																																	
	看 護 師	243 (64)	245 (65)	255 (59)																																																	
	医 療 技 術 員	80 (7)	82 (7)	82 (8)																																																	
	事 務 ・ 他	93 (62)	100 (55)	99 (51)																																																	
	計	457 (146)	473 (140)	481 (128)																																																	
医 業 収 益	6,533,390千円	6,694,909千円	6,950,082千円																																																		
給 与 費	3,615,826千円	3,761,523千円	3,756,749千円																																																		
対 医 業 収 益 比 率	55.3%	56.2%	54.1%																																																		
超 過 勤 務 手 当	204,391千円	206,802千円	212,475千円																																																		
対 医 業 収 益 比 率	3.1%	3.1%	3.1%																																																		
<p>② 経費の削減</p> <p>薬品費は、値引き交渉を強化する。 材料費は、「診療材料検討委員会」の組織と権限を強化し、材料の適正使用と削減に努める。 経費は、医療機器等の保守契約の見直し、委託費・光熱水費の削減を図る。</p>	<table border="1" data-bbox="439 694 1270 1008"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬 品 費</td> <td></td> <td>704,855千円</td> <td>711,765千円</td> <td>824,738千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>10.8%</td> <td>10.6%</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>診 療 材 料 費</td> <td></td> <td>420,817千円</td> <td>420,209千円</td> <td>481,119千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>6.4%</td> <td>6.3%</td> <td>6.9%</td> </tr> <tr> <td>経 費</td> <td></td> <td>823,524千円</td> <td>815,353千円</td> <td>846,363千円</td> </tr> <tr> <td>対 医 業 収 益 比 率</td> <td></td> <td>12.6%</td> <td>12.2%</td> <td>12.2%</td> </tr> <tr> <td>う ち 委 託 費</td> <td></td> <td>452,284千円</td> <td>430,322千円</td> <td>437,795千円</td> </tr> </tbody> </table>						平成28年度	平成29年度	平成30年度	薬 品 費		704,855千円	711,765千円	824,738千円	対 医 業 収 益 比 率		10.8%	10.6%	11.9%	診 療 材 料 費		420,817千円	420,209千円	481,119千円	対 医 業 収 益 比 率		6.4%	6.3%	6.9%	経 費		823,524千円	815,353千円	846,363千円	対 医 業 収 益 比 率		12.6%	12.2%	12.2%	う ち 委 託 費		452,284千円	430,322千円	437,795千円	<p>①薬品費は、化学療法治療等の高額医薬品の使用量が増加したことより増額した。対医業収益比率も高くなった。医薬品の値引き交渉による購入額抑制は継続して行い、併せて後発医薬品使用による購入額抑制も行っている。 ②診療材料費は、SPDによる在庫管理、定数管理強化、安価な同等品への移行等を継続しているが、循環器検査手術件数増加に伴う使用材料、医療安全強化によるディスプレイ材料の増加により増額となり、対医業収益比率も高くなった。 ③経費のうち、修繕費は建物・医療機器等の高額修理があり増額となった。委託費は、医療機器等保守は、前年度の保守内容を精査し可能なものは減額変更を行い、また職員による院内保守管理体制により費用の抑制に努めた一方、新規の窓口業務委託、他病院医師派遣委託等があり増額となった。対医業収益比率は、医業収益の増加により近年に同数値となっている。</p>	△	△						
		平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																	
薬 品 費		704,855千円	711,765千円	824,738千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		10.8%	10.6%	11.9%																																																	
診 療 材 料 費		420,817千円	420,209千円	481,119千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		6.4%	6.3%	6.9%																																																	
経 費		823,524千円	815,353千円	846,363千円																																																	
対 医 業 収 益 比 率		12.6%	12.2%	12.2%																																																	
う ち 委 託 費		452,284千円	430,322千円	437,795千円																																																	

収入増加・確保対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																																												
① 診療報酬の査定、請求漏れを減少させる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査定額国保</td> <td>△10,462千円</td> <td>△11,751千円</td> <td>△12,653千円</td> </tr> <tr> <td>査定額社保</td> <td>△4,746千円</td> <td>△4,847千円</td> <td>△4,607千円</td> </tr> <tr> <td>査定額合計</td> <td>△15,208千円</td> <td>△16,598千円</td> <td>△17,260千円</td> </tr> <tr> <td>保険請求額</td> <td>5,347,167千円</td> <td>5,518,818千円</td> <td>5,766,850千円</td> </tr> <tr> <td>査定率</td> <td>△0.28%</td> <td>△0.30%</td> <td>△0.30%</td> </tr> </tbody> </table>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	査定額国保	△10,462千円	△11,751千円	△12,653千円	査定額社保	△4,746千円	△4,847千円	△4,607千円	査定額合計	△15,208千円	△16,598千円	△17,260千円	保険請求額	5,347,167千円	5,518,818千円	5,766,850千円	査定率	△0.28%	△0.30%	△0.30%	<p>「レセプト博士」というシステムでレセプトチェックを行っている。適切な病名や検査の必要性について記載をしているにもかかわらず、審査機関や審査員により減点査定されるものがある。減点された内容については、事務だけでなく、医師等に周知して情報を共有し、レセプト請求の体制強化に努めている。</p>	△	△																				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																
査定額国保	△10,462千円	△11,751千円	△12,653千円																																																
査定額社保	△4,746千円	△4,847千円	△4,607千円																																																
査定額合計	△15,208千円	△16,598千円	△17,260千円																																																
保険請求額	5,347,167千円	5,518,818千円	5,766,850千円																																																
査定率	△0.28%	△0.30%	△0.30%																																																
② 人間ドック等の健診収益増加を図る。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,515件</td> <td>1,556件</td> <td>1,718件</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>57,860千円</td> <td>58,051千円</td> <td>59,241千円</td> </tr> </tbody> </table>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	件数	1,515件	1,556件	1,718件	金額	57,860千円	58,051千円	59,241千円	<p>平成29年度より協会けんぽ枠を拡大し、その体制を維持したことにより、平成30年度も件数が増加した。脳ドックは、バス会社やタクシー会社の運転手健診強化による受診者数が増加した。</p>	○	○																																
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																
件数	1,515件	1,556件	1,718件																																																
金額	57,860千円	58,051千円	59,241千円																																																
③ 病棟稼働率増による入院収益確保。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救命救急病棟</td> <td>65.8%</td> <td>62.5%</td> <td>58.9%</td> </tr> <tr> <td>一般病棟</td> <td>89.0%</td> <td>90.2%</td> <td>79.8%</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア病棟</td> <td>90.6%</td> <td>91.3%</td> <td>76.3%</td> </tr> <tr> <td>療養病棟</td> <td>76.0%</td> <td>73.4%</td> <td>91.6%</td> </tr> <tr> <td>（うち西館3階）</td> <td>(87.6%)</td> <td>(90.0%)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>（うち西館4階）</td> <td>(64.2%)</td> <td>(56.8%)</td> <td>(91.6%)</td> </tr> <tr> <td>精神病棟</td> <td>82.2%</td> <td>81.2%</td> <td>80.7%</td> </tr> <tr> <td>（うち東館2階）</td> <td>(87.6%)</td> <td>(87.4%)</td> <td>(82.0%)</td> </tr> <tr> <td>（うち東館3階）</td> <td>(76.8%)</td> <td>(75.0%)</td> <td>(79.3%)</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>84.0%</td> <td>83.7%</td> <td>79.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年度より療養病棟は再編により西館4階のみになる。</p>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	救命救急病棟	65.8%	62.5%	58.9%	一般病棟	89.0%	90.2%	79.8%	地域包括ケア病棟	90.6%	91.3%	76.3%	療養病棟	76.0%	73.4%	91.6%	（うち西館3階）	(87.6%)	(90.0%)	—	（うち西館4階）	(64.2%)	(56.8%)	(91.6%)	精神病棟	82.2%	81.2%	80.7%	（うち東館2階）	(87.6%)	(87.4%)	(82.0%)	（うち東館3階）	(76.8%)	(75.0%)	(79.3%)	総計	84.0%	83.7%	79.0%	<p>従前は、救命救急病棟からの患者、一般急性期患者等が一般病棟で入院困難なことがしばしば発生していた。そこで平成30年3月より、療養病棟100床を50床に減床し、一般病床を50床増床させ患者受入れ体制を強化したが、医師数の減少等により、一般病棟、地域包括ケア病棟とも稼働率は低下した。しかしながら入院収益は、一般病棟入院患者数の増加により増額となった。療養病棟稼働率は、低い状況が解消され高い稼働状況となった。</p>	×	×
	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																																
救命救急病棟	65.8%	62.5%	58.9%																																																
一般病棟	89.0%	90.2%	79.8%																																																
地域包括ケア病棟	90.6%	91.3%	76.3%																																																
療養病棟	76.0%	73.4%	91.6%																																																
（うち西館3階）	(87.6%)	(90.0%)	—																																																
（うち西館4階）	(64.2%)	(56.8%)	(91.6%)																																																
精神病棟	82.2%	81.2%	80.7%																																																
（うち東館2階）	(87.6%)	(87.4%)	(82.0%)																																																
（うち東館3階）	(76.8%)	(75.0%)	(79.3%)																																																
総計	84.0%	83.7%	79.0%																																																

収入増加・確保対策	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
④ 紹介入院患者を確保するため、開業医等との連携を強化する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>4,498人</td> <td>4,552人</td> <td>4,816人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>27.0%</td> <td>29.1%</td> <td>29.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>3,314人</td> <td>3,614人</td> <td>4,221人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>18.2%</td> <td>22.1%</td> <td>38.4%</td> </tr> </tbody> </table>					平成28年度	平成29年度	平成30年度	紹介患者数	4,498人	4,552人	4,816人	紹介率	27.0%	29.1%	29.7%	逆紹介患者数	3,314人	3,614人	4,221人	逆紹介率	18.2%	22.1%	38.4%	<p>診療体制・医師の変更等がある度、近隣医療機関（開業医含む）へ連絡をし、スムーズな紹介・逆紹介となるようにしている。 紹介患者を受入し、診察・検査・入院・手術等を実施した後、軽快・退院後には紹介元医療機関へという逆紹介を確立させることより、患者・収益の確保を図っている。</p>	○	○
		平成28年度	平成29年度	平成30年度																							
	紹介患者数	4,498人	4,552人	4,816人																							
	紹介率	27.0%	29.1%	29.7%																							
	逆紹介患者数	3,314人	3,614人	4,221人																							
	逆紹介率	18.2%	22.1%	38.4%																							
	医療機関別紹介患者数 (単位：件 上位10施設)																										
	平成28年度		平成29年度																								
	本馬医院	335	本馬医院	305																							
	小津外科医院	246	小津外科医院	304																							
福井大学医学部附属病院	233	福井大学医学部附属病院	281																								
田中整形外科医院	220	名田庄診療所	246																								
名田庄診療所	209	若狭高浜病院	220																								
千葉医院	200	まつき歯科医院	181																								
にしお内科クリニック	188	千葉医院	180																								
まつき歯科医院	185	しんたにクリニック	156																								
若狭高浜病院	174	にしお内科クリニック	152																								
上中診療所	161	上中診療所	150																								
平成30年度																											
本馬医院	392																										
福井大学医学部附属病院	282																										
小津外科医院	277																										
若狭高浜病院	232																										
名田庄診療所	219																										
しんたにクリニック	207																										
上中診療所	192																										
千葉医院	166																										
まつき歯科医院	159																										
にしお内科クリニック	155																										

収入増加・確保対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																																																																								
	<p>医療機関別逆紹介患者数 (単位：件 上位10施設)</p> <table border="1" data-bbox="439 229 1176 1086"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成28年度</th> <th colspan="2">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>360</td> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>425</td> </tr> <tr> <td>舞鶴共済病院</td> <td>205</td> <td>舞鶴共済病院</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>本馬医院</td> <td>196</td> <td>本馬医院</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>150</td> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>まつき歯科医院</td> <td>146</td> <td>まつき歯科医院</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>にしお内科クリニック</td> <td>125</td> <td>名田庄診療所</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>小津外科医院</td> <td>95</td> <td>上中診療所</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>名田庄診療所</td> <td>87</td> <td>にしお内科クリニック</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>上中診療所</td> <td>85</td> <td>若狭高浜病院</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>千葉医院</td> <td>81</td> <td>千葉医院</td> <td>95</td> </tr> <tr> <th colspan="2">平成30年度</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>福井大学医学部附属病院</td> <td>397</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本馬医院</td> <td>262</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>舞鶴共済病院</td> <td>178</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上中診療所</td> <td>176</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>千葉医院</td> <td>165</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都大学医学部附属病院</td> <td>163</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>名田庄診療所</td> <td>151</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>にしお内科クリニック</td> <td>148</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>まつき歯科医院</td> <td>134</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>若狭高浜病院</td> <td>129</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成28年度		平成29年度		福井大学医学部附属病院	360	福井大学医学部附属病院	425	舞鶴共済病院	205	舞鶴共済病院	241	本馬医院	196	本馬医院	190	京都大学医学部附属病院	150	京都大学医学部附属病院	161	まつき歯科医院	146	まつき歯科医院	144	にしお内科クリニック	125	名田庄診療所	128	小津外科医院	95	上中診療所	119	名田庄診療所	87	にしお内科クリニック	102	上中診療所	85	若狭高浜病院	97	千葉医院	81	千葉医院	95	平成30年度				福井大学医学部附属病院	397			本馬医院	262			舞鶴共済病院	178			上中診療所	176			千葉医院	165			京都大学医学部附属病院	163			名田庄診療所	151			にしお内科クリニック	148			まつき歯科医院	134			若狭高浜病院	129					
平成28年度		平成29年度																																																																																										
福井大学医学部附属病院	360	福井大学医学部附属病院	425																																																																																									
舞鶴共済病院	205	舞鶴共済病院	241																																																																																									
本馬医院	196	本馬医院	190																																																																																									
京都大学医学部附属病院	150	京都大学医学部附属病院	161																																																																																									
まつき歯科医院	146	まつき歯科医院	144																																																																																									
にしお内科クリニック	125	名田庄診療所	128																																																																																									
小津外科医院	95	上中診療所	119																																																																																									
名田庄診療所	87	にしお内科クリニック	102																																																																																									
上中診療所	85	若狭高浜病院	97																																																																																									
千葉医院	81	千葉医院	95																																																																																									
平成30年度																																																																																												
福井大学医学部附属病院	397																																																																																											
本馬医院	262																																																																																											
舞鶴共済病院	178																																																																																											
上中診療所	176																																																																																											
千葉医院	165																																																																																											
京都大学医学部附属病院	163																																																																																											
名田庄診療所	151																																																																																											
にしお内科クリニック	148																																																																																											
まつき歯科医院	134																																																																																											
若狭高浜病院	129																																																																																											

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体・役職等
委員長	白 髪 昌 世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科名誉・客員教授
委 員	濱 詰 健 二	小浜信用金庫理事長
委 員	一 瀬 亨	小浜医師会会長
委 員	岡 正 人	小浜市民生部長
委 員	池 田 誠 子	小浜市連合婦人会会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

令和元年9月24日（火）午後7時から午後10時 杉田玄白記念公立小浜病院 9階会議室